



# 東日本大震災 関連情報

3月11日に発生した東日本大震災により、お亡くなりになられた方々に対してご冥福をお祈りしますとともに、被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。また、現地で災害援助活動にあたられている皆様に深く敬意を表します。

## 震災支援の派遣報告①

4月28日から5月4日までの間、岩手県下閉伊郡山田町にある保健センターでの夜間診療と、避難所の巡回診療を無料で行う医療支援のため、剣淵町立診療所の看

護師佐藤智美さんが派遣されました。

今回の派遣は佐藤さんが北海道にボランティア登録をし、それを基に北海道医師会より要請があったものです。現地での支援活動後、5月6日に町長室を訪問し、活動状況を報告されました。



▲剣淵町立診療所  
看護師 佐藤 智美  
さん

まず現地へ入って感じたことは被害の爪痕の大きさ。多くの家屋は1階部分が流され土台しか残っておらず、3階建ての建物の上には船が乗っているなど、津波の恐ろしさを目の当たりにし、言葉が出ませんでした。また、山田町の中心は津波後、火災の発生があり、ほかの町と違い、焦げ臭いにおいが充満していて、まるでテレビや映画で見る戦後のようでした。山田町の保健センターまでは、水道、電気などのライフラインが断たれているため宿泊場所が確保できず、約30km離れた宮古市のホ

テルから毎日車で40〜50分以上かけて通いました。食事はその途中のコンビニで買ったものがほとんどでした。

現地の医療機関も診療を行ってため、保健センターでは日中と夜間を合わせ平均10名程度が受診していました。受診者の多くはガラスなどを踏んで怪我をした自衛隊の方、ぜんそくの子どもや震災の影響で不眠になった方です。

また、薬剤師が不在だったため、診療所で薬を扱った経験を生かし、派遣団体が持ち寄った薬品や支植物資として届いた薬品の管理を行いました。



▲医師一人、看護師2人と  
事務員2人が派遣され  
ました。右から2番目が  
佐藤さん。

巡回診療ではデイサービスに出掛けていて津波は逃れたものの、自宅で転倒して動けなくなった101歳のおばあさんを往診する機会がありました。床ずれの処置を

行い、現地のボランティア団体が持参した床ずれ予防マットを配布し、今後は訪問診療を受けられるよう現地の保健師と連携し調整しました。また、建具屋さんのお宅では、ご家族が「会社の車が行方不明になり、家の中も瓦礫にまみれて大変な状態だけど、修繕の発注が入り始めた。復興は少しずつ進んできているし、仕事があるだけありがたい」と話されていたことが印象的でした。



▲101歳のおばあさん。  
自宅で転倒し、寝たきり  
になりました。

現地は風こそ強いものの暖かく、日中は半袖で活動していました。日に2〜3回、震度3〜4の余震がまだあり、避難されている方の心のケアが今後ますます重要になってくると感じました。また、現地での支援に慣れたころ派遣期間が終了してしまつたため、期間はもっと長くても良いと思いましたが、機会があればまた支援活動に行きたいと考えています。

## 震災支援の派遣報告②

5月28日から6月5日までの間、岩手県宮古市にある市立第二中学校にて復興支援を行うため、剣淵町絵本の館の学芸員・司書の高橋愛佳さんが派遣されました。

今回の派遣は自治労の復興支援活動で募集されたもので、高橋さんは自治労剣淵町職員労働組合の代表として派遣され、現地での支援活動後、6月5日に町長室を訪問し、活動状況を報告されました。



▲剣淵町絵本の館  
学芸員・司書  
高橋 愛佳さん

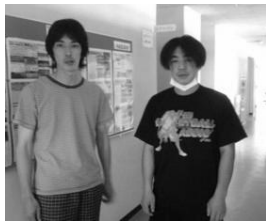
宮古市は5月末で死者415名、行方不明者355名、また、家屋倒壊数が6,934件と被害が深刻でしたが、被災地の中では最も復旧が進んでいると言われ、私たち支援団が現地に着したときには市内中心部のがれき処理がほぼ終了し、被災住宅の解体工事が始まっています。

仮設住宅の設置工事も着工されましたが、必要数すべては完

成しておらず、19の避難所に合わせて約1,400人が生活していました。

宮古二中の避難所は体育館を使用し、最大で200人前後いたそうですが、5月末は約50人が生活しており、テレビで見かけるイベントや炊き出し、有名人の訪問もないとても静かな避難所でした。

本部の運営は地元のボランティア2人、24時間交代の市職員1人、日替わりで社会福祉協議会から派遣されるボランティア1人と自治労支援団で行い、毎週担当者が交代する私たちは主に掃除・ゴミ整理や除菌、食事の配ぜんや物品整理にあたりました。長期の集団生活のため、ノロウイルス対策の除菌は必ず1日2回実施しました。



▲アイア(左)で面  
テ(右)被災者  
ン(被)し  
ラ(優)し  
ポ(優)し  
元(方)  
上(方)  
野(方)  
居(方)  
人(方)  
が(方)  
2(方)  
す(方)  
白(方)

体育館にはトイレが付いており、外に洗濯機やシンク、移動式浴室(展示車)が設置されていました。が、コンロなどがなく炊事ができ

ません。そのため、食事は支援物資のほか5月末までは自衛隊の炊き出し、6月からはチェーン店のお弁当が3食届くようになりましたが、朝から揚げものだったり、昼ご飯のおかずがうどんだったり、と、厳しい献立でした。

また、ご飯以外に菓や日用雑貨など必要な物資は頼めば届き、不自由のない生活が送れるよう配慮されていました。『本当に食べたいもの』『本当に着たいもの』などは手に入らないので、モノはあっても嬉しくない、楽しみがない方が多かったと思います。

避難所に住んでいる方は、80歳を超えたおばあちゃんから幼児までさまざま、仕事を続けている方、がれき撤去作業に従事している方、学校や保育園に通っている子どもなど、住んでいる場所やモノ以外は私たちと何も変わらない日常でした。その日常を壊さないよう気を付けていましたが、飲用のお湯をよく切らしたり、お風呂掃除の時間を間違えたりと数々の失敗で迷惑をかけてしまいました。そんな私たちでしたが、避難所最終日に「久々に面白い人たちが来て楽しかった」という言葉をボ

ランテイアさんからいただき、役に立ったかどうかは分からないけど、なんとなく良いことをしたような気分になりました。

宮古市を離れる前に、市議会議員の案内で、スーパー堤防の「田老地区」や、被害の大きかった「鉾ヶ崎地区」を見学させてもらいました。復旧が早いと言われている宮古市でしたが、現況を見ると、何も言えず、ただ写真やメモをとることしかできませんでした。



▲田老地区の『スーパー堤防』洪水や地震に対して安全な幅の広い堤防も、山側(図左)から守れなかった。

また、岩手県は山が多いのもあり、宮古市内でも高台や山側に住んでいた方々は震災の日、沿岸の状況を全く知らなかったそうで、高い所に住んでいる方と海側に住んでいる方のギャップが大きいように見えました。

被災地から戻った私たちも、復旧のスピードを上げるために、この先も長い支援を続けて行きたいと思います。

## 義援金を受け付けています

剣淵町では3月14日から9月30日までの間、義援金の受付を行っています。皆様からたくさん義援金が寄せられています。心から感謝申し上げます。

### ▼日本赤十字社北海道支部

剣淵町役場住民課（日赤剣淵分  
区）へ直接、義援金をお持ちください。受領書を発行いたします。免税領収書が必要な場合は、窓口で申し出いただくと、後日、日本赤十字社から発行されます。

### ▼北海道共同募金会

剣淵町社会福祉協議会（共同募金会）へ直接、義援金をお持ちください。受領書を発行いたします。

## 剣淵町で受付した義援金額

- 日本赤十字社北海道支部（住民課）  
2,682,538円（6月20日現在）
- 北海道共同募金会（社会福祉協議会）  
1,733,842円（6月20日現在）

### 義援金受付期間

平成23年9月30日まで

## 私たちにもできる災害への備え

地震や洪水などの天災は、いつ起こるかわかりません。災害時に素早い対処ができるよう、普段から心構えをしておきましょう。

### 洪水が起きたとき

#### ▼避難に車は使用しない

災害時での車の避難は、浸水して動かなくなり、水圧で閉じ込められてしまいます。徒歩で避難するようにしましょう。

・洪水時は足元が見えず、側溝や小川、池の位置がわかりにくいので注意しましょう。

・災害情報に注意しながら早めに避難しましょう。

・大雨の時は、地下街、地下室が浸水してしまうおそれがあり、地下街や地下室は、周りの状況にも気付きにくいいため、大雨の時はできるだけ地下を避けるようにしましょう。

#### ▼避難する際の注意点

・素足・長靴は禁物。ひもでしめ

られる運動靴をはきましょう。家族ではぐれないようにお互いの体をロープで結んで避難しましょう。

・歩ける深さは男性で約70cm、女性で約60cmが目安です。腰まで水深があるようなら無理に避難せず高い場所で救援を待ちましょう。

・水面下にはどんな危険があるかわかりません。長い棒を杖代わりにして安全確保をしながら歩きましょう。



・お年寄りや病人などは手を引いたり、背負ったりしましょう。また、幼児には浮き輪を渡しましょう。

## 大雨に注意しましょう！

### ▼局地的大雨から身を守る

8月から9月にかけては、1年で最も降水量が多くなる時期です。夏になると、発達した積乱雲が現れ、晴れていたのに急に暗くなつて雨が降り、またすぐやんだりすることがあります。

大気の状態が不安定なときに、積乱雲はどんどん発達し、バケツをひっくり返したような感じや滝のような雨を降らせることがあります。これを「局地的大雨」と言います。

局地的大雨は、降った雨が低い所へ一気に流れ込むため、総雨量は少なくても、十数分で大な被害が発生することがあります。

局地的大雨から身を守るために、気象情報や周囲の様子で危険を感じたら、迅速に危険を避ける行動をとってください。

□川の中やそばに居るときは、すぐに川から離れる。

□地下街や地下の工事現場などに居るときは、地上へ移動する。

□周りより低い土地やアンダーパスなどにいるときは、なるべく高いところへ移動する。